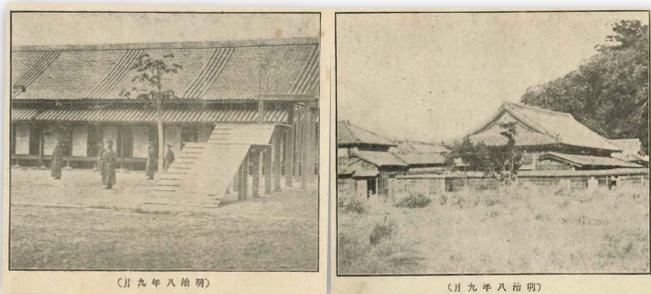




# 総合科学部創立150周年 年表 I

## 師範学校

和暦	明治4年	7年	8年	8年	11年	13年	18年	18年	22年	23年	32年	41年	41年	42年	大正4年	11年	11年	昭和13年	16年	16年	18年	19年	20年	21年
西暦年	1871	1874	1875	1875	1878	1880	1885	1885	1889	1890	1899	1908	1908	1909	1915	1922	1922	1938	1941	1941	1943	1944	1945	1946
月日	7月14日	5月1日	10月27日	12月2日	12月	3月20日	2月10日	9月12日	10月1日	7月	4月1日	4月1日	4月15日	11月6日	5月1日	10月20日	11月28日	7月	7月22日	12月8日	4月1日	4月1日	7月4日	12月21日
事項	徳島師範期成学校が旧徳島城西の丸藩校「長久館」跡（現・内町小学校付近）に創設（入学者34人） <b>徳島県の設置（のち名東県・高知県となる）</b>		徳島師範期成学校に附属の小学校を設置 ※以下、校名変更などの詳細は別表「教育組織の変遷」を参照		高知県が徳島女子師範学校を富田浦（元勸工場跡・現徳島市富田浜1丁目付近）に設置（明治13年6月30日に廃止し、徳島中学校附属女学校を設置）	<b>高知県から分離して徳島県を再置</b>	旧西の丸の徳島師範学校・徳島中学校の校舎が焼失	徳島師範学校・徳島中学校が富田浦町に移転（現在の県庁舎付近）	<b>市制施行により徳島市が誕生（人口6万1084人、全国第10位）</b>	徳島尋常師範学校に女子部を設置（30名が入学）	徳島県師範学校が常三島の現在地に新築移転	徳島県師範学校女子部を分離独立し、徳島県女子師範学校を設置（県立徳島高等女学校に併設）	皇太子（のちの大正天皇）が来校し授業台覧	師範学校卒業生による同窓会「渭水会」の第1回総会を開催	師範学校四十年創立記念式を挙行、『徳島県師範学校沿革略誌』を編纂出版	徳島高等工業学校（のちの徳島大学工学部）が常三島に開校	徳島女子師範学校の水泳指導に前畑秀子氏らが来校	徳島県女子師範学校の水泳指導に前畑秀子氏らが来校	皇国主義教育のもと、従来の校友会を改組して学徒振励隊を組織	<b>ハワイ真珠湾攻撃（アジア太平洋戦争が勃発、昭和20年8月15日）</b>	官制改正により、徳島県師範学校および徳島県女子師範学校を発展的に解消し、官立徳島師範学校（男子部・女子部）を設置	県立青年学校教員養成所を再編して官立徳島青年師範学校を設置	徳島市中心部が空襲被災、徳島師範学校・徳島工業専門学校・徳島医学専門学校	<b>昭和南海地震の発生</b>

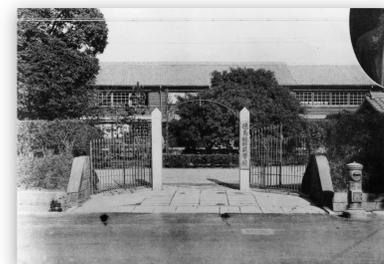


徳島師範期成学校  
教室（左）と講堂（右）

明治8年9月 右手は城山  
『徳島県師範学校沿革略誌 完』大正4年



徳島県女子師範学校・県立徳島高等女学校の全景  
昭和17年 現在の県立城東高校付近



徳島県師範学校 正門  
常三島校舎



# 総合科学部創立150周年 年表Ⅱ

## 学芸学部 / 教育学部

和暦	西暦年	月日	事項
昭和24年	1949	5月31日	学芸学部、教育学部、教育研究所、図書分館、附属学校を配置 国立大学設置法により徳島大学を設置 学芸学部・医学部・工学部の3学部
24年	1949	7月15日	昭和24年度(第1回)徳島大学入学式を挙げる
24年	1949	11月2日	徳島大学開学祝賀会を工学部講堂で挙げる(以後、開学記念日となる)
25年	1950	4月1日	学芸学部2年制の小学校保育兼修課程を設置(昭和38年3月廃止)
25年	1950	9月1日	学芸学部通信教育部を設置(昭和34年3月廃止)
26年	1951	4月1日	師範学校の廃止により、徳島大学学芸学部附属小学校・中学校・幼稚園に改称
26年	1951	5月19日	総会を開催 旧師範・女子師範・青年師範卒業生を含めた3校合同の学芸学部同窓会の創立
27年	1952	5月2日	附属図書館を常三島地区に設置
29年	1954	9月30日	同窓会館「洗心苑」が学芸学部校地に竣工(平成元年取り壊し)
30年	1955	11月23日	学芸学部振興会会則の制定
38年	1963	4月1日	養護教員養成課程(定員30名)の設置(昭和50年5月12日廃止) 学芸学部2課程54学科目の設置を定める
39年	1964	10月10日	東京オリンピックの開催(〜24日)
40年	1965	4月1日	教養部を設置(平成5年3月31日廃止)。
40年	1965	4月1日	学芸学部を学芸専攻科を設置(翌年4月に教育専攻科に改称)
41年	1966	4月1日	学芸学部を教育学部と改称(平成2年3月31日廃止)
41年	1966	4月1日	教育学部に養護学校教員養成課程・幼稚園教員養成課程を増設
41年	1966	4月5日	教育学部附属養護学校の設置
42年	1967	3月25日	教育学部校舎(現1号館)新築工事が竣工
42年	1967	4月1日	教育学部に特別教科(看護)教員養成課程(定員20名)を増設
42年	1967	6月1日	養護教諭養成所を附置(昭和54年3月廃止)
44年	1969	6月7日	大学紛争激化で教養部棟・医学部棟の一部が封鎖(8月2日解除)
49年	1974	5月1日	徳島大学教育学部同窓会編『教学百年』を刊行
50年	1975	4月1日	教育学部に養護教諭特別別科を設置(昭和61年4月21日廃止)
52年	1977	4月1日	教育学部に養護教諭養成課程を設置(平成2年3月31日廃止)
54年	1979	1月12日	共通1次試験の開始



学園創設八十周年ならびに  
学部設立5周年記念行事  
昭和29年11月20日



同窓会館「洗心苑」全景  
昭和29年9月竣工  
現在の2号館北側(平成元年・取り壊し)



木造建物時代の  
学芸学部本館



新装なった教育学部  
昭和42年3月竣工



# 総合科学部創立150周年 年表Ⅲ

## 総合科学部 および 大学院

和暦	昭和61年	61年	平成5年	6年	11年	11年	13年	15年	16年	18年	21年	28年	29年	令和2年	3年	6年	6年	
西暦年	1986	1986	1993	1994	1999	1999	2001	2003	2004	2006	2009	2016	2017	2020	2021	2024	2024	
月日	4月22日	4月	4月1日	4月1日	4月1日	4月5日	4月1日	4月1日	4月1日	11月4日	4月1日	4月1日	4月1日	2月	4月1日	4月1日	10月19日	
事項	教育学部を改組して総合科学部総合科学科を設置（学生定員250名、4コース8ピーク）	教育学部同窓会を「徳島大学学生会」と改称	自然システム学科（4コース）の2学科に再編（学生定員270名） 教養部の廃止統合に伴い、総合科学部総合科学科を人間社会学科（5コース）・教育学部同窓会を「徳島大学学生会」と改称	大学院人間・自然環境研究科修士課程（人間環境専攻・自然環境専攻）を設置	全学共通教育センターを設置（平成28年3月31日廃止）	<b>明石海峡大橋の開通</b>	人間社会学科を7コース／4大講座、自然システム学科を3コース／3大講座に再編	大学院人間・自然環境研究科に臨床心理学専攻（修士課程）を増設	国立大学法人法により国立大学法人徳島大学の設立	総合科学部創設二十周年事業を実施	総合科学部2学科を人間文化学科・社会創生学科・総合理数学科の3学科7コースに再編	大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス（SAS）研究部を設置 （地域科学専攻・臨床心理学専攻）および博士後期課程（地域科学専攻）を設置 大学院人間・自然環境研究科を再編して、大学院総合科学教育部博士前期課程に再編	総合科学部3学科を総合科学部社会科学科4コースに再編（学生定員170名）／工学部7学科を理工学部理工学科に再編／生物資源産業界生物資源産業界総合科学部3学科を総合科学部社会科学科4コースに再編（学生定員170名）	大学院生物資源産業界研究部・教養教育院・教職教育センターを設置 大学院ソシオテクノサイエンス研究部を大学院理工学研究部に再編 大学院SAS研究部を大学院総合科学研究部に再編	大学院総合科学教育部と大学院先端技術科学教育部を改組し、大学院創成科学研究科「博士前期課程（地域創成専攻・臨床心理学専攻ほか）／博士後期課程（創成科学研究科）」を設置	<b>新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大</b> を再編し、大学院社会産業理工学研究部を設置 大学院総合科学研究部、大学院理工学研究部および大学院生物資源産業界研究部	総合科学部創立150周年記念式典を挙行	コース・心身健康コースと合わせて総合科学部社会科学科3コースとなる 公共政策コースと地域創生コースを統合し地域デザインコースを新設、国際教養成科学専攻」を設置



総合科学部創設記念式典

昭和61年10月15日 総合科学部1号館301講義室

総合科学部創立20周年記念シンポジウム  
柳田邦男氏講演会 平成18年11月 25日

徳島大学総合科学部創立20周年記念シンポジウム  
開かれたところ 開かれた知

基調講演 柳田 邦男 氏  
「科学の知と物語を生きる人間」

パネル討論  
「開かれたところ・開かれた知」

日時：平成18年11月25日（土）  
13時30分～17時  
会場：新聞放送会館7階ホール（徳島市中徳島町）  
**入場無料**

柳田邦男 氏  
1956年（昭和31年）、熊本県鹿野市生まれ。  
1980年東京大学経済学部卒業。NHKに入局。放送局長を経て、1994年にNHK放送文化センター長に就任。1997年にNHK放送文化センター長に就任。1998年にNHK放送文化センター長に就任。1999年にNHK放送文化センター長に就任。2000年にNHK放送文化センター長に就任。2001年にNHK放送文化センター長に就任。2002年にNHK放送文化センター長に就任。2003年にNHK放送文化センター長に就任。2004年にNHK放送文化センター長に就任。2005年にNHK放送文化センター長に就任。2006年にNHK放送文化センター長に就任。2007年にNHK放送文化センター長に就任。2008年にNHK放送文化センター長に就任。2009年にNHK放送文化センター長に就任。2010年にNHK放送文化センター長に就任。2011年にNHK放送文化センター長に就任。2012年にNHK放送文化センター長に就任。2013年にNHK放送文化センター長に就任。2014年にNHK放送文化センター長に就任。2015年にNHK放送文化センター長に就任。2016年にNHK放送文化センター長に就任。2017年にNHK放送文化センター長に就任。2018年にNHK放送文化センター長に就任。2019年にNHK放送文化センター長に就任。2020年にNHK放送文化センター長に就任。2021年にNHK放送文化センター長に就任。2022年にNHK放送文化センター長に就任。2023年にNHK放送文化センター長に就任。2024年にNHK放送文化センター長に就任。

パネリスト  
柳田 邦男 氏（徳島新聞社論説委員）  
若木 敬久 氏（徳島新聞社論説委員）  
高橋 智雄 氏（徳島大学学務部長）  
総合科学部学生代表（4年生 青木さやか・金子陽一郎）  
討論会座長 総合科学部助教授 矢部 拓也

事前に申し込みが必要です。定員になり次第締め切ります。問い合わせ先、および申し込み方法は、裏面をご覧ください。

主催 徳島大学 総合科学部  
後援 徳島新聞社・四国放送



文部科学省選定の現代GP  
平成18～20年度「豊饒な吉野川を持続可能とする共生環境教育」プログラム



# 教育組織の変遷

